



南米新報

NOTICIAS DA GUERRA EUROPEA E SINO-JAPONESA

本紙の特色 ニュースの週 間綜合編輯

已むを得ぬ成行き

英國領土の整理

是れ早晚迎るべき運命か

獨逸側では過ぐるクリスマスを期して、どうでも斯うでも英本土上陸を遂行せんと先づその空軍襲撃を強化して、ロンドンに初め各地重要都市を一齊空襲した。...

平和を勧告す

ローマ法王から

過ぐるクリスマス祭日を機縁としてローマ法王が各交戦國元首へ平和に關する勸告文を送つた。...

肚の禪の話

無文漢教行

吾等自身の意志、これを「業力」といふ。業力といふ思想は實に釋尊の教の根本である。...

佛領印度と日本

先覺邦人の血今猶安南に残る

世界新秩序建設と云ふ偉大な世界大連立の事業に東亞共苦心を注いで配船した山下汽船の勢を多しなればならぬ。...

恭賀新年

併而讀者各位の御清福を祈る

南米新報社 同人

二千六百〇一年元旦 南米新報社 同人 併而讀者各位の御清福を祈る

謹賀新年 福原八郎 在東京

謹賀新年 上塚司 在東京

謹賀新年 君塚慎 在東京

告示 昭示 昭示

昭示 昭示 昭示

謹賀新年 椎木文也 横濱正金銀行リオ支店

山本喜譽司 水上不二夫

後藤武夫

間崎三三三

プロミツソン

謹賀新年

昭和十六年元旦

在伯日本人同仁會
日本病院
職員従業員一同

Federação Industrial
do Japão
EDIFICIO BANCO DE SÃO PAULO
Caixa Postal, 4058. Tel. 3-2243

サンパウロ貿易幹旋所
聖市サンパウロ銀行ビル十五階
電話 三二二四三
郵函 四〇五八



謹賀新年

聖市郊外産業組合

- 本部及信用部 アベニダエステリオル九三〇 電話 二一五八七番
- ▼蔬菜部 蔬菜市場内 バラツカ 二二三番 電話 二一〇三〇番
- ▼バタ、及雜穀販賣所 アニヤンガパウー街 一四四番 電話 四一〇八五九番
- ▼購買部 アベニダエステリオル九三〇 電話 二一五八七番
- ▼肥料部及利用部 アベニダエステリオル九三〇 電話 二一五八七番
- ▼カンピーナス出張所 デカンボス街六八番 電話 三〇一九番

謹賀新年

和洋御菓子

西中菓子店

聖市コンセルイロフルタード街三番 電話 二一八三三

喪中に就き

年賀欠禮仕候

水本法律事務所

聖市

謹賀新年

精棉賣買

一般商事

金融

ブラス

コット社

BRAZCOT Ltda.
RUA BOA VISTA, 116 SÃO PAULO

謹賀新年

各種委託販賣

北野ガラン商會

●本店 (ヒネイロス) ルアアルコベルデ 二六〇七 電話 八二七六五
●支店 リオデジャネイロ市 アルベス七九一 電話 四三二七二

謹賀新年

鈴木季造

プロミツソ

謹賀新年

大原榮助

グワララベス

謹賀新年

青木商店

バルハライ

伊藤嘉平次

アラサツバ



謹賀新年

兒島寫真館
ラルゴドテソウロ 二階 二番 電話 二一七五八

謹賀新年

片岡旅館

東洋旅館

日之出旅館

館主 片岡 晋市 電話 二一〇
館主 前園 次郎 電話 一〇九
館主 村田 道江 電話 三八四

富美乃家

聖市タバチンゲラ街七二 電話 二一七六一



謹賀新年

海外興業株式會社

聖市

謹賀新年

村上製菓所

聖市コンセルイロフルタード街二〇 電話 二一六二六

謹賀新年

カーザマツダ

製版業 (松田徳太郎) 松田竹次郎 聖市コンセルイロフルタード街 三〇六 電話 二一七四三

正 義村取吉
蕨菜類雜委託販賣及仲買
聖市青物市場コンパルチメント二〇
通信 Entrepoto Municipal de Generos
Compartmento 20 Mercado
S. Paulo
寒霞溪印醬油
製造元 聖市郊外 カシヨエラ
義村 薫高 三宅 良平 取次人 聖市青物市場 コンパルチメント 二〇 義村 取吉

正コチア産業組合

統制部	Tel. 8-2191	電話 四一七三六
購買部	Tel. 8-2191	電話 四一七三五
販賣部	Tel. 8-2192	電話 四一七三二
信用部	Tel. 8-2191	電話 四二四四九
利用部	Tel. 8-2193	電話 四五〇九
指導部	Tel. 8-2191	電話 三五四四
庶務部	Tel. 8-2192	電話 二一〇
運輸部	Tel. 8-2192	電話 二一〇

●中央出張所
アニヤンガパウー一三五 電話 四一七三五
●リオデジャネイロ出張所
ブラツサキセンターノウエンボロ三八 電話 四二四四九
●サントス出張所
ジエネラルカマラ二〇 電話 四五〇九
●カンピーナス支所 電話 三五四四
●ジャカレイ支所 電話 二一〇
●モヂダスクルゼス支所 電話 二一〇
●スサノ支所
●バルゼアグラランテ支所
●ビネロス市場内販賣所 電話 八二五九六
●醫療部 電話 八二二九三
●運輸部 電話 八二二九三 四一七三六

謹賀新年

カナカ才工業株式會社

伯國サンパウロ

謹賀新年

富士屋運動具店

●剣道、防具、面、胴、タレ、小手以上四品 貳百八拾ミル
●青年用 六百ミル
聖市タマンダレ三四六 電話 七一九五六

謹賀新年

東洋ホテル

西野

謹賀新年

中村 薫

聖市コンデデサルゼーダス三二八番 電話 二一九八八

謹賀新年

長森聖榮堂

店主長 森信雄
本舖 富山市堀端町
支店 サンパウロ市 郵函 四二二八

謹賀新年

三宅壽一
グワララベス

謹賀新年

アラド、カルビテラ、カロッサ
其他農具一切

青山兄弟工場

アラサツバ
郵便 二〇八

謹賀新年

フアルマシア

フルタール

鎌倉 義雄
アラサツバ公園前

謹賀新年

●旅館

長尾與三三郎

アラサツバ

謹賀新年

●ミンシ界の王

シンガミシン

並に附屬品一切

代理人 米倉仙八

アラサツバ

謹賀新年

内外雜貨、農産物仲買並ニ運搬業

岡本兄弟商會

バストス
電話 二一
郵便 四四

謹賀新年

●馬具 其他一切

●製靴 其他一切

森園兄弟製靴店

本店 グワララベス
支店 バルバイソ

謹賀新年

●皆様の旅のつかれは

丸井旅館で

館主 丸井直吉
ペンチホリス
電話 一三四 郵便 一〇一

謹賀新年

●皆様の米・珈琲等を好條件にて購入します

前田兄弟商會

マキナアリアンサ
前田兼作
宮崎茂松
プロミツソ

謹賀新年

●内外雜貨

桐木商店

桐木乙十
アラサツバ

謹賀新年

安瀬商會

安瀬盛次
アラサツバ

謹賀新年

●醫學士

内田利藤次

ソロ線 プルデンテ市

賀正

川原政衛門

アグードス

賀正

佐々木商店

佐々木仁左夫
アラサツバ 郵便 二〇八

謹賀新年

吉田音作

グワランタン

賀正

喜多村商店

アバニヤンダーバ

謹賀新年

チンツラリヤ パウリスタ
鷺見喜三

パウリスタ延長線 ガルサ譯
電話 一〇三 郵便 五一

謹賀新年

田中穰

バストス
電話 一一三
郵便 一一三

謹賀新年

グワランタン

青年聯盟

謹賀新年

後藤利一

バストス

BAR E BILHAR
DE
Minoru Nomura
R. Prudente de Moraes, 228
Guararapes N. O. B.

謹賀新年
皆様の
パール野村
●球ツキも御座います
野村實
グワララベス市

謹賀新年

ホテル八千代

佐藤清義
瀧子
聖市コンセルレイオフルタード三二
電話 二一三六七八 郵便 一六九四

謹賀新年

ホテル池田

バストス市街地
電話 三〇
郵便 一一〇

謹賀新年

堀本禮造

ソロ線 プ・ウエンセスラウ譯
郵便 四六

賀正

清水安丸

プロミツソ

謹賀新年

三宅安太郎

バストス

謹賀新年

渡邊新太郎

プロミツソ

謹賀新年

馬具、運動具、旅行具一式

角藤靴店

角藤光雄
バストス

謹賀新年

小松寫真館

小松重
ソロ線 プ・プルデンテ 郵便 一〇九

謹賀新年

日の丸農具製作

石橋農具研究所

石橋長次
バストス移住地
郵便 二〇六

謹賀新年

●チエテ移住地

ホテル

アベニータ

四月朔日與市
アラサツバ市驛前
電話 二〇四
郵便 二〇八

謹賀新年

アラサツバ

商工組合

中央藥局
宇ノ瀨共營
出利葉商店
伊藤嘉平次
大原商會
余越鐵工所
武部商店
安瀬商會
平井ホテル
菅山商會
松本ホテル

謹賀新年

サンパウロ 日本商業會議所

聖市アラサツバ ジョーンメンデス
一五四番(七階)

謹賀新年

バス自治準備事務所

謹賀新年

村上茂人

グワランタン

謹賀新年

第二モンソン

富士青年團

アグードス 郵便 二六

謹賀新年

パウルー

帝國領事館

パウルー市

謹賀新年

アラサツバ日本人會

アラサツバ

隨筆 西貢素描

香港から西貢まで 野田南折

船が香港を出ると、其の南支那海の底が強く、波は刻々と増して来る。...

難局を切りぬけて 世に出た人物

この三國中、日本を好まざるものは米國と英蘭であらう。...

LOJA DA CHINA LOUREIRO, COSTA & CIA. SAO PAULO CAIXA POSTAL, 676

謹賀新年 橋八郎 プロミツソン 間崎之雄 プロミツソン 宮崎八郎 聖市

謹賀新年 ニット写真館 太田正明 朝比奈薫 屋宜商店

謹賀新年 岩淵彪夫 池永繁藏 松熊藤太郎 田川商店

BAR E PASTELARIA OGAMA 大釜 瀨木商店 安原善太

Algodoeira do Sul Ltda. (SOUTHERN COTTON LTD.) 南部棉花會社

ALFAIATARIA YABE 謹賀新年 矢部洋服店

謹賀新年 SOCIEDADE COLONIZADORA DO BRASIL VENDEM-SE LOTES DAS FAZENDAS

謹賀新年

内外雜貨 小間物専門店
皆のバザール日本
神頭喜代治
マリリヤ市
本店ノイベデジヨリヨ一〇〇
支店サンルイス八五七

謹賀新年

本田寫眞館
マリリヤ

謹賀新年

内外小間物並ニ卸小賣一切
文房具店
島袋商店
マリリヤ市
本店サンルイス街八一八
支店パロンデバナナル
一五五

謹賀新年

パールー商工組合(イハハ順)
パールキック
カフエラソ
旅館並ニ
旅館部
内外雜貨
農具農機部
電氣化學研究所
グワラナキック製造元
内外雜貨
全
旅館部
内外雜貨
旅館部
内外雜貨
旅館部
佐藤 尾吉 次
藤 尾吉 次

謹賀新年

大阪商船切符取扱所
ホテル都
館主 西田盛
聖市イルマンシニア
一五 電話二一七四二五

謹賀新年

食堂並ニ
ベラクルイス本道通下
竹内喬

謹賀新年

古賀菊治
グワララベス

謹賀新年

齒科醫
寶臣衛
マリリヤ市キニセデ
ノベンプロ八八九
豊三〇

謹賀新年

パール神原
神原政太郎
マリリヤ市
電話 二二五

謹賀新年

カフエラソ
商工組合
家入卯平
吉安庄造
吉安格造
竹内商店
熊谷丹司
信原商會
藤澤豊次郎
安良田建本
共營商會
右田商店
三橋万之助
安原善太
佐々木商店
小林至誠堂
田邊賢一

謹賀新年

ソロカバナ線電話配給店
奥地唯一の書籍専門店
齊藤書店
齊藤 義治
ソロ線ランシヤリヤ
郵 九八

賀正

政岡齒科院
政岡 福美
アラサツバ市
ゼネラルオソリオ街八九番

謹賀新年

最新流行形
迅速丁寧
園田洋服店
グワララベス市

謹賀新年

アバレー産業組合
ソロカバナ線アバレー市
バラ街一番
郵 三二二 電話二六

謹賀新年

マルチノポリス
商工組合
石井租
今川善一
今村陸治
柳常二郎
太田商店
古谷益實
光岡傳一郎
前田商店

謹賀新年

バストス絹織物工場
販賣部 上田 精二
聖市サントアンドレ三番

謹賀新年

高級寫眞 複寫引伸
完備セル撮影場アリ
原田寫眞館
原田 秀峯
ガルサジヨアキンビザ四七二
電話 一五六呼出
郵 二二一番

謹賀新年

醬油醸造元
黒島伊平治
プロミツソ

謹賀新年

内外雜貨、雜貨仲買
大西兄弟商會
本店 フフルデンテ
支店 サントアナスタシオ

謹賀新年

バルライソ町
佐藤 東壽
古川 吳服店
平 洋服店
島袋 藥局
粥川 靴店
森園 靴店
大野 靴店
峯松 靴店

謹賀新年

濱井マキナ
ラビニヤ町

正齒科 日野完吾
賀 洋裁學院 日野壽子
アバレー市

謹賀新年
大阪屋洋服店
山中 治
バストス市街地 郵 一〇九

謹賀新年

清東麒麟鳳
酒東

カンピーナス農産加工會社

謹賀新年

公サンパワロ認洋裁女學院
アバレー分院長
後藤純江
ソロカバナ線アバレー市

謹賀新年

バザール東京
岡本 專太郎
マリリヤ市サンルイス七八九
郵 六六 電話二四四

謹賀新年

佐藤福太郎
バストス 電話一〇
郵 二二五



謹賀新年

濱岡商店
聖市カルロスガルシア一〇三
電話 二一七五八一
郵 九三三

謹賀新年

カザ東山
從業員一同
リンス

謹賀新年

HOTEL CENTRAL BASTOS
バストス中央旅館
常孝
バストス

謹賀新年
 齒科醫
金城山
 ●治療所 クリストホーン・コロンホ街三番
 二階 一四、一五室
 電話 二一八〇五八
 ●自宅 マードレ・チオドラ街 四三四番
 電話 七二三八四

謹賀新年
日伯齒科醫院
 村上眞一郎
 聖市アベニダランセルベスターナ二
 三階(エスキナダフラツサセー)

謹賀新年
大阪屋洋服店
 聖市(ビネイロス)
 バイスレーメ街一番

謹賀新年
橋詰製粉所
 聖市(ビネイロス)
 ミゲルデイヤサ街三番

謹賀新年
 ●日本書籍雜誌各種
南米堂書店
 仲眞美登里
 聖市イルマンシンプリシアーナ
 電話 二一六九七
 三三〇〇
 三三〇〇

謹賀新年
 ●馬具 其他一切
 ●靴 製作修繕に應じます
野兄弟製作所
 アラサツバ市
 マレンヤルチオドロ二五
 郵函 二〇八

謹賀新年
 茶園主
岡本寅藏
 ●茶園 レチストロ
 市内ケンゼデ
 ノーベンプロ五三番
 郵 市内ガルホンプレーノ
 三五一番
 サントス支店
 サントス プラス クーバス二七八番

謹賀新年
 ●商業登録、鑑定手帖
 ●外国人登録、歸國手続其他
 右の諸手續誠意を以つて
 御相談に應じます
ホテル末廣
 聖市コンヂドビニヤル街
 一八四番
 電話 二一五六三八番

謹賀新年
 ●申込み次第規則書
 送呈致します
サンパウロ女學院
 聖市サンジョアキン街
 二二六番
 電話 七七八四五
 郵函 四四〇三

謹賀新年
浅倉齒科院
 聖市グロリーヤ 三五二
 電話 二一六八四八

謹賀新年
 ●精米、珈琲精選所
 ●農産物賣買
大原兄弟商會
 聖市パウラソイザ街三二二
 電話 四二八三二
 支店アラサツバ市
 グワラ・ベス町
 ミランドホリス町

謹賀新年
 内外雜貨各種並に酒類
 薄利多賣
 配達迅速
池永兄弟商店
 聖市コンヂサレセイヤス街二九四
 電話 二一七二二六

謹賀新年
 ●バザール
 ●ドラゴン
川野勝平
 ルア・ダスバルマイラス三七番

謹賀新年
岡山齒科
 聖市コンヂドビニヤル二三五番
 電話 二一六〇三七
 七三四四〇

謹賀新年
 ●大阪商船會社符取次所
和歌山旅館
 聖市コンヂレヨフルタード街
 佐野光二
 電話 二一八二四九

正賀
聖州義塾
 小林美登里

正賀
笹岡商店
 聖市市場内パツツカニ五番

謹賀新年
和田周司
 聖市 ジヤルチンエロイザ街一三
 ソブロード
 電話 二一四〇四八

伊藤米藏
 ランシヤヤ路

謹賀新年
平田松竹
 ソロカバナ線アバレー市郵函七

謹賀新年
西川喜諾
 聖市 キンゼデ ノーベンプロ二二三
 (二階八號室)
 電話 三一六〇三四

謹賀新年
 ジュケリー農産組合
 ●本部 聖市郊外ツクルビー
 アベニダノバカンタレーラ二四
 ●聖市倉庫
 ミゲルカルロス街七七
 電話 四一九七〇
 ●蔬菜部野菜市場
 電話 三一三六八七

ちんみなおりようりで
 いつもみなさまを
 おむかへします
料亭とんだや
 コンヂレヨフルタード二三五
 電話 二一六七七七

CASA EICHI OKABE
 VERDURAS FRUTAS
 AVES E OVOS
 C. POSTAL, 4247 - TEL. 2-5717
 ENTREPÓSITO MUNICIPAL
 COMPARTIMENTO, 10
岡部商店
 農産物賣買
 及委託販賣
 聖市青物市場
 電話 二一五七七
 郵函 四二四七

謹賀新年
相馬土地事務所
 聖市フェリツペデオリベイヤ二二
 電話 二一七六〇九

CASA ASAHI LTD.
 Rua Itapura de Miranda 58
 Tel. 3-2584 São Paulo
謹賀新年
 日用雜貨、養鶏飼料、肥料、
 農具藥劑、農産物委託販賣
カーザ朝日
 聖市イタプーラデミランダ街五八番
 電話 三一三五八四番

CASA NAKAYA
 DE
 OUTA & KAWANO
 Rua Conde do Pinhal 170. Tel. 2-2207
 São Paulo
謹賀新年
 ●日本品
 直輸入商
カーザナカヤ
 太田龍二
 河野忠重
 聖市コンヂドビニヤル街一七〇番
 電話 二一三〇七

料亭
青柳
 聖市タバチンゲラ街五六番
 電話 二一九四八

謹賀新年
 直輸入商
伊藤商會
 滋味製造元
 滋味本舖
 聖市イルマンシンプリシアーナ七八番
 電話 二一八七八四
 郵函 三一三二

INTERCAMBIO NIPPO-BRASILEIRO

COMO QUER QUE SEJA, O JAPÃO INCLUE-SE HOJE EM DIA ENTRE OS MELHORES CLIENTES DO BRASIL

Desde o momento em que os dirigentes políticos e economicos do Japão conduziram essa nação ao ciclo industrial, visando resolver, em uma estrutura manufatureira, os problemas de sua população em aumento ininterrupto e garantir o futuro do Imperio, entre as grandes potencias de nosso século, passou o Archipelago a depender em escala crescente das matérias primas e dos produtos alimentares de outros povos.

Para o Brasil, em cujas exportações ainda preponderam os artigos de que mais necessita o Japão, es-

sa sua evolução para o estágio fabril re-presentou inquestionavelmente um benefício. Não fôra, com efeito, politica industrial, que se traçou esse país, e estariam, até agora, para a colocação de nossa agro-pecuaria, á mercê tão sómente dos mercados europeus e norte-americanos. O aparecimento do Japão no ról dos Estados industriaes significou a existencia de um centro a mais consumidor de produtos que figuram comumente em nossa balança exportadora.

Em virtude, porém, de um conjunto de causas, que não paga a pena analisar no momento, as relações commerciaes nipponicas, desde o momento em que logramos imprimir á cultura do "ouro branco", maxime no planalto paulista, a transcendencia que ela hoje desfruta. Mas, ao lado do algodão, começaram a surgir tambem outros produtos brasileiraes, cuja aquisição interessa ao Japão, como as peles e os couros, as madeiras, as cêras, os mineraes, o fumo. Infilmente, ainda outros artigos,

portante industria de fiação e de tecelagem, veiu ele abastecer-se liberalmente em nosso meio, desde o momento em que logramos imprimir á cultura do "ouro branco", maxime no planalto paulista, a transcendencia que ela hoje desfruta. Mas, ao lado do algodão, começaram a surgir tambem outros produtos brasileiraes, cuja aquisição interessa ao Japão, como as peles e os couros, as madeiras, as cêras, os mineraes, o fumo. Infilmente, ainda outros artigos,

que deveriam constituir objeto de bem maior intercambio entre o Brasil e o Japão, como o café, as carnes, o cacau, a borracha, ainda não logram revestir-se de maior interesse para a economia nipponica. Acreditamos, porém, que, desde o momento em que se seja possível maior expansão do movimento de trocas entre os dois povos, o Brasil far-se-á representar, no Archipelago, por intermedio de um numero maior de produtos de sua pauta exportadora,

Como quer que seja, o Japão inclue-se hoje em dia entre os melhores clientes do Brasil. E com uma circunstancia altamente favoravel para nós: é que o seu mercado de consumo agora é que está sendo realmente trabalhado pelas forças de nossa exportação. Que progressos mais do que sensíveis têm sido feitos, nos últimos tempos, basta relancear-se a vista sobre o valor de nosso intercambio. A partir de 1935, eis por exemplo, como se traduziu em ouro

o nosso movimento exportador:

Ano	Libras-Ouro
1935	158.098
1936	1.683.333
1937	2.122.106
1938	1.650.601
1939	2.029.583
1940 (Lo.s.tre)	651.732

Enquanto, em 1935, o valor-ouro de nossas vendas ao Japão não atingia sequer 1/10 sobre o valor-ouro total de nossa exportação para o estrangeiro, no ano passado o Archipelago já absorvia mais de 5/10 do total do rendimento-ouro de nossa exportação.

As importações feitas pelo Brasil denotam igualmente que ha, de nossa parte, o justo empenho em absorver maior quantidade de artigos manufaturados e de varias materias primas dessa procedencia:

Ano	Libras-ouro
1935	246.852
1936	349.609
1937	647.472
1938	473.096
1939	479.930
1940 (Lo.s.tre)	386.574

Inscreeve-se o Japão na categoria dos povos que, nos anos mais recentes, nos proporcionaram maiores saldos positivos, o que nos autoriza declarar que o Archipelago é, na verdade, um dos grandes compradores do Brasil.

O advento da guerra europeia deve constituir, ao nosso ver, um incentivo a mais, no sentido de melhor vincular a economia dos dois povos amigos, hoje definitivamente solidarios não apenas no campo commercial, senão tambem em materia de trabalho e de sympathia humana, dada a cooperação valiosa da imigração e do sangue japonês ao nosso progresso e ao nosso engrandecimento.

Produção de Cimento no Brasil

No quinquenio 1928-1932 o Brasil produziu 117.580 toneladas de cimento. São Paulo, até então, era o unico Estado produtor dessa preciosa materia prima de construção. Em 1933, a produção de cimento brasileiro subiu para 225.680 toneladas, das quaes 164.565 fabricadas em São Paulo e 61.115 no Estado do Rio de Janeiro. No ano seguinte (1934), registou-se novo aumento, pois o Estado do Rio, que apenas no ano anterior iniciara a sua produção, apresentou ao mercado 139.682 toneladas competindo, assim, com as 164.237 de eriger paulista. Em 1935 a Parahyba incluiu-se entre os produtores de cimento, lançando no mercado 2.434 tns., as quaes, somadas ás produções fluminenses e paulistas, per-

fizeram o total de 366.261 toneladas. A produção da Parahyba aumentou de cerca de 1.000% no ano de 1936, elevando-se a 23.841 toneladas. Nesse ano o Espirito Santo, por sua vez, entrou para o grupo dos produtores de cimento, com 2.041 toneladas. Já então a produção do Estado do Rio de Janeiro ascendia a 223.644 toneladas, nivelando-se assim, praticamente, com a produção paulista, que foi de 235.588 toneladas. Em 1937, os algarismos são os seguintes: Parahyba, 35.914; Espirito Santo, 9.153; Rio de Janeiro, 239.785; São Paulo, 286.600 — formando o total de 571.452 toneladas de cimento brasileiro. Segundo os dados officaes, recentemente publicados pelo Instituto Brasileiro de Geografia e Esta-

tística no periodo de 10 anos, ou seja no decennio 1928-1937, o Brasil produziu 2.089.946 toneladas de cimento, no valor de 431.824.000\$. As repercussões da in-

A guerra naval de 1939.40 no museu

No museu colonial de Wilhelmshaven foi instalada uma sala destinada a oferecer uma sinópse quanto ás proezas da marinha de guerra alemã nesta época. Fotografias e troféus enchem a "Sala de Lembranças". Entre os troféus, encontra-se entre outros, o pavilhão de um submarino inglês, um pavilhão de guerra polonês apreendido em Hela, estilha-

dustría do cimento em outros ramos da atividade economica brasileira, notadamente no de construções, poderão ser isoladas estudadas através dos resultados do Censo Industrial e do Censo Predial e Domiciliario, que se vão realizar no proximo dia 1.º de setembro.

Foram Estabelecidas as Normas para Tributação Sobre Energia Eletrica

O decreto foi assinado pelo presidente da Republica

Rio. 26 O presidente da República assinou o decreto-lei introduzindo modificações no art. 2.º do decreto que estabeleceu normas sobre a tributação das empresas de energia eletrica. O decreto-lei assinado tem a seguinte redação: Considerando que as providencias determinadas pelo decreto-lei n.º 2.281, de 5 de junho de 1940, para o efeito de lançamento da taxa de que trata o seu art. não poderão ser concluidas no exercicio corrente; Considerando mais que o valor dessa taxa e sua partição serão fixadas anualmente mediante propostas do Conselho Nacional de Aguas e Energia Eletrica, de acordo com o art. 9.º

daquele decreto-lei. Decreta: Art. 1.º) O valor da taxa de que trata o art. 2.º do decreto-lei numero 2.281, de 5 de junho de 1940, e suas quotas são fixadas para o exercicio de 1941, no mesmo valor vigente para 1940, determinados pelo § 5.º do art. 9.º do mesmo decreto lei. Art. 2.º) O lançamento e a cobrança em 1941, se referirão ao biennio 1940/41, sendo o pagamento efetuado em duas prestações, nos meses de agosto e dezembro. Art. 3.º) revogam-se as disposições em contrario". Concessionarios de Energia Hidraulica Atenção: - O art. 2.º do decreto-lei 2.281, acima referido é do seguinte teor: "Art.

2.º) - Os concessionarios ou permissionarios de energia hydraulica, de acordo com o Código de Aguas, ficam obrigados ao pagamento de uma taxa sobre a potencia concedida ou autorizada. § 1.º) - As empresas que aproveitavam energia hydraulica antes do Código, ficam igualmente sujeitas ao pagamento da taxa, que incidirá sobre a potencia utilizada industrialmente. § 2.º) - Ficam isentos de taxa de aproveitamento de potencia inferior a 50 kilowatts para uso exclusivo do proprietario da fonte de energia. § 3.º) - A taxa que se refere este artigo substitue, a partir de 1.º de janeiro de 1940, as taxas de fiscalização, federal e estadual ou municipal ou quaesquer outras referentes á utilização da energia hydraulica ou respectiva estatística bem como as do art. 1.º do decreto numero 24.663, de 11 de junho de 1934".

Proibida a exportação do aluminio dos Estados Unidos, imediatamente surtiu para as fábricas brasileiras a ameaça de fechamento, por falta de materia prima. Um dos argumentos frequentemente apresentados em favor do nosso artificialismo industrial é a defesa nacional. Precisamos de um parque industrial para o caso, muito pouco provavel, mas não de todo impossivel, de uma guerra externa. Estamos vendo, porém, como nos aproveitaria, nesse caso, a nossa industria, na parte que se limita a transformar materia prima estrangeira. Trancada a importação, fecham-se as fábricas... Que nos adiantam, pois, tais fábricas, do ponto-de-vista da defesa nacional? Que nos adiantam, a esse respeito, todas as outras que igualmente dependem da importação da materia prima? Lemos nas publicações officiais numerosas referências a bauxita brasileira, que devia alimentar as nossas manufaturas de aluminio. A bauxita brasileira existe realmente, não só em tais publicações, como tambem em jazidas que já deviam estar em exploração. O peor, contudo é que ainda não fomos capazes de extraí-la

EMPRESTIMO DE NOVENTA MIL CONTOS PARA A CONSTRUÇÃO DE RODOVIAS NO RIO GRANDE DO SUL
Rio. 26. Reuniu-se, hoje, no Palacio Monroe, a Comissão de Negocios Estaduaes. Além de outros assuntos, foi aprovado o parecer favoravel á concessão de um emprestimo de 90.000:000\$ ao E. do R. G. do Sul para a construção de estradas de rodagem. Es se parecer será submetido á apreciação do ministro Francisco Campos, e do presidente da República. Esteve presente á reunião e foi ouvido pela Comissão sobre assuntos de sua administração o prefeito do municipio paulista de Santo André.

PESQUISAS SOBRE O TABACO DURANTE A GUERRA

A Sociedade Internacional da Ciencia do Tabaco, em Bremen, instituiu recentemente o premio Dr. Richard Kissling, o qual deverá ser distribuido anualmente, a pesquisadores de tabaco que se tornaram seus mercedores. Com esse premio, a sociedade honra o fundador da moderna pesquisa sobre o tabaco. Depois que dois jovens cientistas de Heidelberg, Posselt e Reimann, químico e médico respectivamente, lograram, já em 1828, comprovar pela vez primeira, a descoberta concernente á nicotina quantitativamente, desenvolvendo então, um sensacional metodo para a fixação do alcalóide na fumaça do mesmo. Os resultados das suas pesquisas, Kissling concatenou no seu "Manual da Tabacologia", com o qual ele fundamentou a pesquisa sobre o tabaco como uma nova ciência. O primeiro congresso internacional da

Sociedade, fixado para o outono de 1939, teve a sua realização impedida pela guerra. Todos os trabalhos apresentados para o mesmo, serão publicados na revista "Acta Nicotina", cuja edição sairá dentro em breve. O programa elaborado pelo Director do Departamento para pesquisas sobre o Tabaco, Prof. Dr. Koenig, apareceu entremettes, em forma de livro. A Sociedade Internacional da Ciencia do Tabaco, que entre outros se encarregou do devido aproveitamento dos trabalhos concretizados pelo Dr. Kissling, incumbiu-se quanto á futura iniciativa sobre o esclarecimento de numerosas questões ainda obscuras, de ambos os institutos recém-creados, relativas ao ensino especializado das propriedades do tabaco e sobre a pesquisa de meios gerais e comparativos dos estimulantes contidos pelo tabaco.

(OS MEDICAMENTOS ORIGINAIS DO JAPÃO)

NIPPO-THERAPIA NO BRASIL

NAKAKUBO & CIA.

Matriz
SEMBON SHIJÓ KYOTO JAPÃO
84.3641
Tel: 84.3642



Filias
R. Frederico Alvarenga, 230. Tel: 24445 São Paulo
Av. Copacabana, 209 Tel: 47-3781 Rio de Janeiro
R. R. de Janeiro, 2655 Tel: 2-1279 B. Horizonte

AGENTES

- Adolfo Romanó
Praça Coronel Enéas, 38. 48 Tel: 513 Curytíba
- Afonso Soares
Av. Julio de Castilhos, 34 Tel: 8528 Porto Alegre
- Spencer Hartmann & Cia.
Rua da Praia, 95 Tel: 6016 Recife
- Jaime Neves & Cia.
Rua Barão do Rio Branco, 1182 Tel: 1915 Fortaleza
- Victor C. Portela
Praça Visconde do Rio Branco, 46 C. Postal, 454 Belém
- Afonso C. Queiroz Bahia

店支國伯社會名合保久中

市ロイネヤジデオリ
市 聖
市 テンゾリオロベ